



ウエルビーイング

校長 伊藤 栄司

錦華坂沿いに植えられた種類豊富な植栽は、一斉に黄緑色の美しい葉を茂らせています。子どもたちは、新校舎での生活にも慣れ、休み時間になると元気いっぱい校庭で遊ぶ姿が見られます。お隣の錦華公園も使えるようになり、公園を使ったダイナミックな学習も始めていきます。

また、6月1日には、「お茶の水小学校・幼稚園 新校舎落成、開校30周年記念式典・祝賀会」が予定されています。これまでお世話になったたくさんの方々へ感謝の気持ちを捧げるとともに、これから50年、100年とお茶の水小学校が続くように願い開催いたします。式典には保護者の方もご参加いただくことができますので、是非、ご出席ください。

幸福感に包まれる子どもを増やす

先日の保護者会全体会でお話したように、今年度、ウエルビーイングの向上を経営方針に盛り込んでいます。これは、令和5年3月に中央教育審議会から出された「次期教育振興基本計画について（答申）」の中に「日本社会に根差したウエルビーイングの向上」があり、ここから引用しました。日本社会に根差したウエルビーイングの要素としては、「幸福感」「学校や地域とのつながり」「協働性」「サポートを受けられる環境」「社会貢献意識」「自己実現」「心身の健康」「安心・安全な環境」などが挙げられています。

また、これらの要素は「今ある幸せ」「明日も幸せが続く安心感」「家族と一緒にいる幸せ」「周りの人と過ごせる喜び」など現在と将来、自分と周りの他者を含めた多様な幸福感を意味しています。

教育を通じて向上

実際には令和9年に告示される新学習指導要領に盛り込まれる内容ですが、とても素敵な言葉なので少し先取りしています。この内容を教育にどのように取り入れていくかが課題になります。私は、自分の「幸福感」を追求するのではなく「人を幸せにする幸福感」が大切ではないかと考えています。昨年度から子どもたち伝えている「人のために力を尽くす」ことは、友達の幸福感を生み出すと同時に自分の幸福感に繋がるからです。そこで、お茶の水小版ウエルビーイングは「人を幸せにする生き方」とし、幸福感に包まれる学校、幸福感が持続する学校とします。

幸福感の広がり

本校の入学式や卒業式には60名ほどの来賓の方々のご来校されます。千代田区内の小学校でこれほど多くの方にお越しいただける学校はありません。それだけ、お茶の水小学校を大切に思い、子どもたちの成長を楽しみにしてくださっている方が多いということです。何事にも一生懸命頑張る子どもたちの姿や日々成長する姿は、地域の方々の幸福感に繋がっています。

また、子どもたちの幸福感と同じように教職員の幸福感もウエルビーイングには含まれています。教員にとっての幸福感は、子どもたちの「わかった」「できた」の声を聞くことです。自分の指導や関わりによって子どもたちが大きく成長したと実感したとき、疲れも吹き飛ばす幸福感を味わいます。

保護者の方々も含め、子どもに関わる全ての人々の幸福感の向上を本校のウエルビーイングはめざします。